

島原とキリスト教

西暦 1563 年、ルイス・デ・アルメイダが領主有馬氏の庇護の下、島原に布教を始めました。その後、有馬氏の下で島原半島のキリスト教信者は増加しますが、豊臣・徳川の中央政権の禁教令により次第に弾圧されるようになります。

1616 年、島原領に移された松倉重政は、幕府の方針に従いさらなる弾圧を加え、その子勝家のときに島原の乱が起こったことはよく知られています。

今年 11 月 24 日、ローマの教会では、この時期に日本各地でキリストの教えに従い殉教した人々を福者(ふくしゃ)の位に列する「列福式(れっぷくしき)」を長崎で行なうこととしました。その数 188 人ですが、中には島原半島で弾圧され亡くなったキリシタン 37 人が含まれています。

全世界のキリスト教信者が注目するこの式典にあわせ、郷土島原の地で起きたキリスト教の布教と弾圧の歴史を学ぶため、この講演会を企画いたしましたので、ぜひお出でください。

日 時 平成20年8月31日(日)午後2時～

場 所 島原城 観光復興記念館

入場料 無 料

講 師 葛嶋秀信先生(島原カトリック教会)

主 催 島原市教育委員会・島原文化連盟

島原城キリシタン史料館



お問い合わせ 島原市教委育委員会 社会教育課 電話68-5473

※ 同時開催 「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」写真パネル展

島原文化会館 8月29日(金)～31日(日) 9:00～17:00 **入場無料**